

カラ口座・アプローチ漏れを防ぐ!

つみたてNISA開始時には こんな対応を行おう

口座開設済みのお客様への利用推進と、未開設のお客様へのアプローチ法を解説する。

塩川治明

1 口座開設済みのお客様への 利用促進を徹底しよう

せ

つかくお客様につみたてNISA口座を開設してもらっても、利用してもらえなければ宝の持ち腐れになってしまふ。つみたてNISAは金融税制の中でも、個人に対してメリットの大きな制度だ。最大800万円という大きな投資枠の中で、最長20年間という長期間にわたり投資から生み出された利益が非課税になる。このような制度メリットをお客様に丁寧に伝えよう。

自行庫でのつみたてNISAの利用を促していくことで、これまでにない面からお客様とのリレーションが築けるだけでなく、より深耕された取引が実現することにも期待できる。

つみたてNISA口座を開設したお客様の中には、資産運用に関心を持ち、今回初めてNISA口座を開設したという人もいます。しかしながら、口座を開設し

ても、すぐにファンドを購入し利用を始める人ばかりではない。どのような投資信託をいつ購入することが望ましいのか等の判断がつかず、利用に至らないケースだ。

このようなお客様には、私たちが担当者が判断のサポートとなる情報提供を行うことが期待されている。もちろん、投資信託の選択においては、お客様の投資目的に適合するものを案内すべきだろう。しかしながら、担当者からの提案が期待されている点も忘れてはならない。適合性を確認してふさわしいファンドを並べ、あとはお客様に判断を任せるという姿勢では不十分である。

つみたてNISAは、お客様にとって初めて利用する制度である。この制度メリットを活かすファンドの選択にあたっては、担当者からの専門性の高いアドバイスが期待されているのだ。

非課税期間を十分活用できる ファンドの提案を心がける

20年間という投資期間はつみたてNISAの特長の一つだ。これを踏まえると、多くのお客様には長期投資に向けたファンドが好まれるといえる。

長期投資に向けたファンドとしては、例えばリスクとリターンの振れ幅が小さい国債や先進国の高格付け債券などに投資するファンドが候補といえる。また、株式の組入れ比率を小さくしたバランスファンドや、マーケット環境に応じてファンドのポートフォリオを機動的にアロケーションするタイプのファンドも挙げられる。これらは、経済成長やインフレ率などに沿って欲張らずに資産を増やしていくタイプともいえる。

大きな下落リスクを避けるためヘッジファンドを利用したり、リスク量を調整したりするリスク・パリティ型のファンドなど、長期投資の中でマーケットが悪化した場面でも安定的な運用が期待できるファンドも好まれるだろう。

できるだけ下落リスクを軽減させる運用や仕組みを持つファンドは、投資に付きものの「下落局面で売却を判断すべきか」という不確定要素を抑えるため、じっくりと長期投資へ取り組めるようになる。つみたてNISAで設定された20年間という非課税期間を十分に活用できるファンドの提案を心がけると、利用率向上につながるといえる。

情報提供資料を活用して ドルコスト平均法を説明

つみたてNISA口座で一度購入申込みをすると、その後は継続的かつ定期的に購入していくことになる。これは、購入申込みをすることで、資金が継続的に価格変動リスクのある金融商品へ振り替わることだと考えることもできる。お客様によつては、一括で購入して運用する場合と比べて、どのタイミングで購入を判断すればよいのか分りにくいという人もいます。

一括で購入する場合であれば、自身が好機だと思ったときや、担



当者が提供する為替やマーケット環境に関する情報から「割安だと思えた」「価格上昇が期待できた」ときなどに購入を判断する。一方、常に購入を継続するつみたてNISAでは、為替相場やマーケット環境にかかわらず購入するため、言い方を換えると高値づかみもありうると想定して商品の購入申込みを判断する必要があると考えている人も多い。

このようなお客様には、「変動するマーケットや為替相場においては、継続購入することで、価格が高いときや円高のときに購入するのと同じ程度に、価格が安いときや円安のときにも購入でき、結果として購入単価を引き下げるこ

とが期待できる」という点を伝えよう。いわゆるマネープランガイドや投資の基礎といった各金融機関が用意している、資産運用の基本を解説する情報提供資料の活用が有効になる。

最近では、ドルコスト平均法の解説をする情報提供資料も増えた。つみたてNISAの制度案内リーフレットにもドルコスト平均法を解説しているものが少なくない。20年に及ぶ資産運用を勧めるにあたり、長期投資のメリットを理解してもらおうと、ドルコスト平均法を分かりやすく説明することは、担当者に期待される役割の一つだ。事前にどのように伝えれば理解してもらいやすいかを確認したうえで、「ドルコスト平均法を利用できるからこそ、つみたてNISAは早めに始めるほど制度メリットを享受できる」という点を説明していこう。

他の商品との併用を 考えてもいろいろと一法

つみたてNISAでは、お客様に実際に投資してもらい、都度運

用状況を確認してもらおうと、長期の分散積立投資の効果を実感してもらおうことができる。また資金が動くときは、他の金融商品を提案しやすい時期ともいえる。例えば、お客様が月々2〜3万円の投資について判断に迷っている場合などに、つみたてNISAと積立定期預金を同額で1万円ずつ始めてもらう、円建ての標準払い個人年金保険と一緒に始めてもらうなど、つみたてNISA一本槍で案内せず、複数の選択肢の中からニーズを探りつつ案内することも有効だろう。

つみたてNISAは、私たちがだけでなくお客様も初めて利用を検討する制度である。制度自体は理解できたとしても、実際に運用する際には担当者からの提案やアドバイスを期待しているというお客様も少なくない。成約を急がず、またファンド提案だけに固執しないよう配慮しながら、お客様の理解のペースに合わせて情報提供していくことで、つみたてNISAをカラ口座とせず、活性口座とすることができるよう。